

中小企業景況調査結果

| | |
|---------------------------|-------|
| 2019年度 第Ⅱ期 (2019年7月～9月) | … 実績 |
| 2019年度 第Ⅲ期 (2019年10月～12月) | … 見通し |

2019年10月



福島商工会議所

1. 調査要綱

(1) 景況調査について

本調査は、福島商工会議所管内の景気動向を把握するために、会員事業所を通して四半期毎の景況をアンケートの方法によって調査し、集計値をDIで表示したものである。

※DIとは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値

(2) 今回の調査対象期間

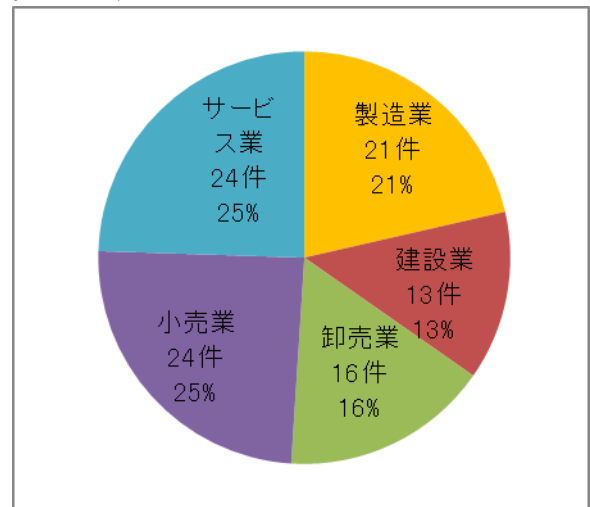
2019年度 第Ⅱ期 (2019年7月～9月)

| 第Ⅰ期 | | | 第Ⅱ期 | | | 第Ⅲ期 | | | 第Ⅳ期 | | |
|------|----|----|-----|----|----|-------|-----|-----|-----|----|----|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 今回実績 | | | | | | 来期見通し | | | | | |

(3) 調査件数

福島市内会員事業所 有効回答事業所数 98件 (回答率 94.2%)

| 業種 | 有効回答事業所数 | 割合 |
|-------|----------|--------|
| 製造業 | 21件 | 21.4% |
| 建設業 | 13件 | 13.3% |
| 卸売業 | 16件 | 16.3% |
| 小売業 | 24件 | 24.5% |
| サービス業 | 24件 | 24.5% |
| 合計 | 98件 | 100.0% |



(4) 調査内容

| 調査項目 | 比較方法 | 比較期間 |
|------|----------|-----------------------------------|
| 売上 | (前期比) | 前期(2019年4月～6月) ⇔ 今期(2019年7月～9月) |
| 業況 | (前期比) | 前期(2019年4月～6月) ⇔ 今期(2019年7月～9月) |
| | (今期) | 今期(2019年7月～9月) |
| 採算 | (前年同期比) | 前年同期(2018年7月～9月) ⇔ 今期(2019年7月～9月) |
| 設備投資 | (実施した割合) | 今期(2019年7月～9月)の実施有無と件数 |
| 従業員 | (過剰・不足) | 今期(2019年7月～9月)の過不足 |

2. 詳 細

景況感概要

今回の調査結果では、全体的に売上・業況・採算において全体的にややポイント増加し、設備投資を実施した企業割合が、前期から16.6ポイント増加しており改善基調は見られるものの、4割近い企業が従業員不足となっており、来期の業況予測においてポイントが減少するなど先行きに不安を残す結果となっている。

(結果要約表)

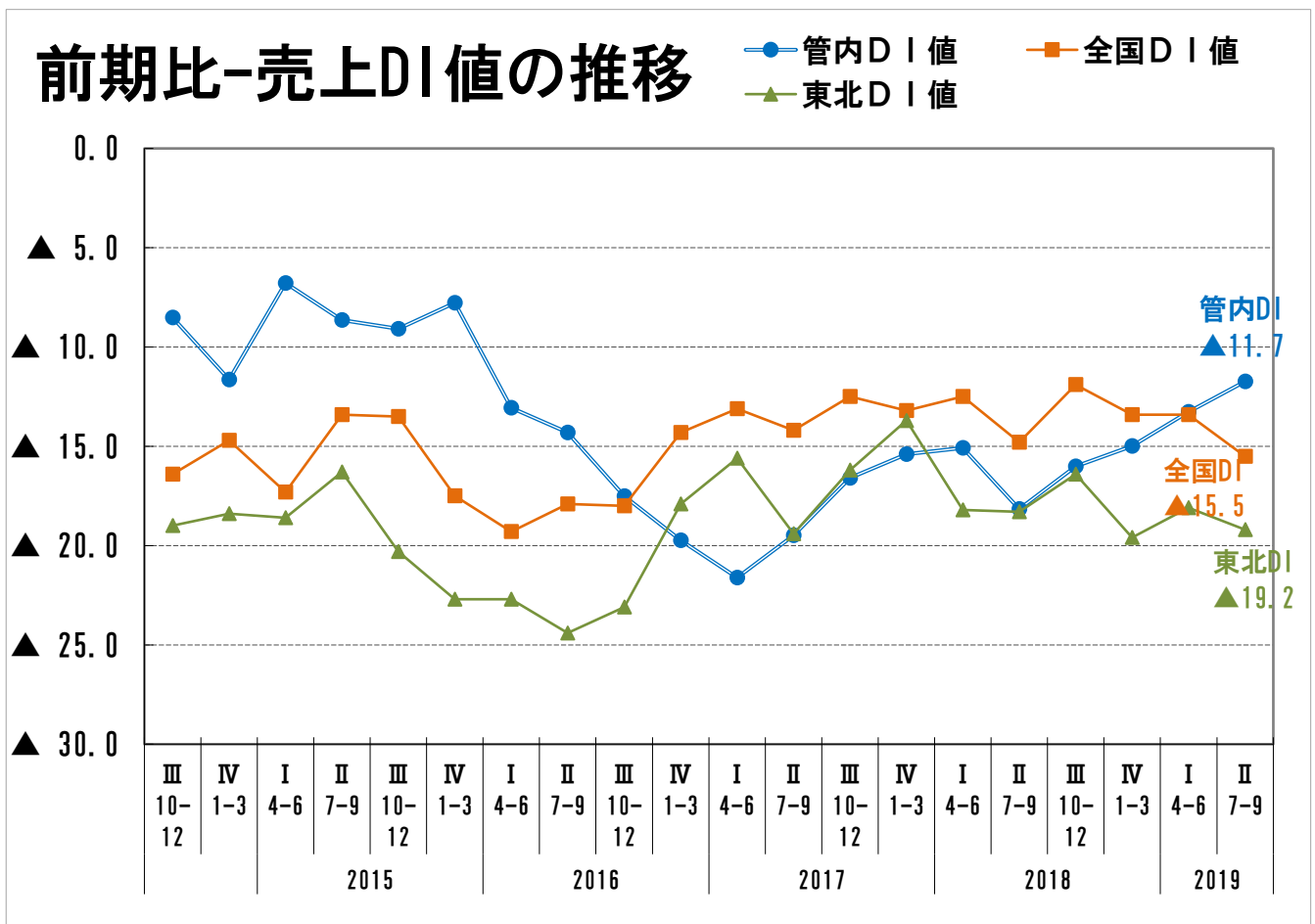
| 調査項目 | 比較方法 | D I 値/割合 (前回D I 値) | 状況 |
|-------|----------|-----------------------|---------------------|
| 売 上 | (前期比) | ▲ 11.7 (▲ 13.3) | ・前期比 1.6 ポイント増加 ↑ |
| 業 況 | (前期比) | ▲ 13.2 (▲ 15.0) | ・前期比 1.8 ポイント増加 ↑ |
| | (今 期) | ▲ 26.8 (▲ 28.0) | ・前期比 1.2 ポイント増加 ↑ |
| | (来期予測) | ▲ 24.7 (▲ 21.4) | ・前期比 3.3 ポイント減少 ↓ |
| 採 算 | (前年同期比) | ▲27.3 (▲29.4) | ・前期比 2.1 ポイント増加 ↑ |
| | (来期予測) | ▲28.0 (▲29.2) | ・前期比 1.2 ポイント増加 ↑ |
| 設備投資 | (実施した割合) | 42.9% (25.7%) | ・前期から 16.6 ポイント増加 ↑ |
| 従 業 員 | (過 剩) | 6.1% (6.9%) | ・前期から 0.8 ポイント減少 ↓ |
| | (不 足) | 38.8% (36.6%) | ・前期から 2.2 ポイント増加 ↑ |

2-1. 前期比-売上DI値の推移

- 全国、東北では、若干マイナス幅が拡大
- 管内では、マイナス幅が若干縮小

※売上DIは「増加」企業の割合から「減少」企業の割合を引いた値

| 調査期間 | 2018年度 | | 2017年度 | | | | 2019年度 | | 前期比 増減 |
|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | |
| 全国DI値 | ▲12.5 | ▲13.2 | ▲12.5 | ▲14.8 | ▲11.9 | ▲13.4 | ▲13.4 | ▲15.5 | ▲2.1 |
| 東北DI値 | ▲16.2 | ▲13.7 | ▲18.2 | ▲18.3 | ▲16.4 | ▲19.6 | ▲18.1 | ▲19.2 | ▲1.1 |
| 管内DI値 | ▲16.6 | ▲15.4 | ▲15.1 | ▲18.2 | ▲16.0 | ▲15.0 | ▲13.3 | ▲11.7 | 1.6 |



2-2. 前期比-業況(自社)DI値の推移

■全国・東北では、やや低下

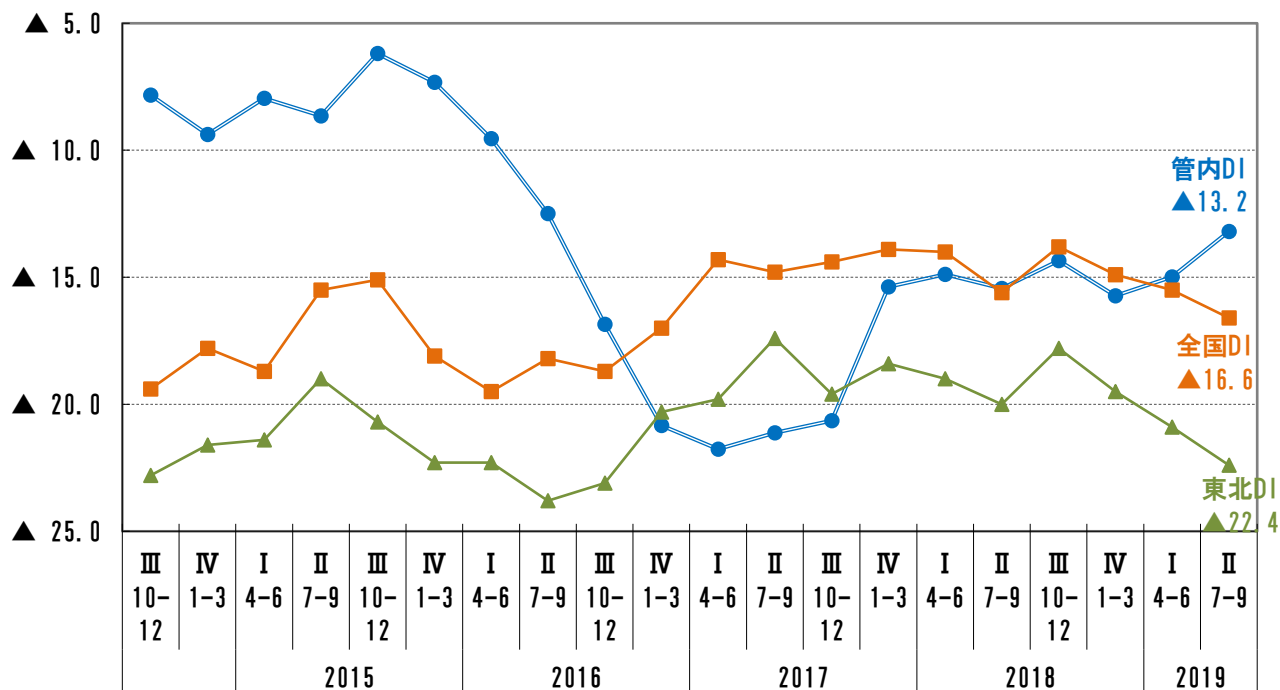
■管内では、若干上昇

※業況DIは景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値

| 調査期間 | 2018年度 | | 2017年度 | | | | 2019年度 | | 前期比 増減 |
|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | |
| 全国DI値 | ▲14.4 | ▲13.9 | ▲14.0 | ▲15.6 | ▲13.8 | ▲14.9 | ▲15.5 | ▲16.6 | ▲1.1 |
| 東北DI値 | ▲19.6 | ▲18.4 | ▲19.0 | ▲20.0 | ▲17.8 | ▲19.5 | ▲20.9 | ▲22.4 | ▲1.5 |
| 管内DI値 | ▲20.6 | ▲15.4 | ▲14.9 | ▲15.4 | ▲14.3 | ▲15.7 | ▲15.0 | ▲13.2 | 1.8 |

前期比-業況DI値の推移

●管内DI値 ■全国DI値
▲東北DI値

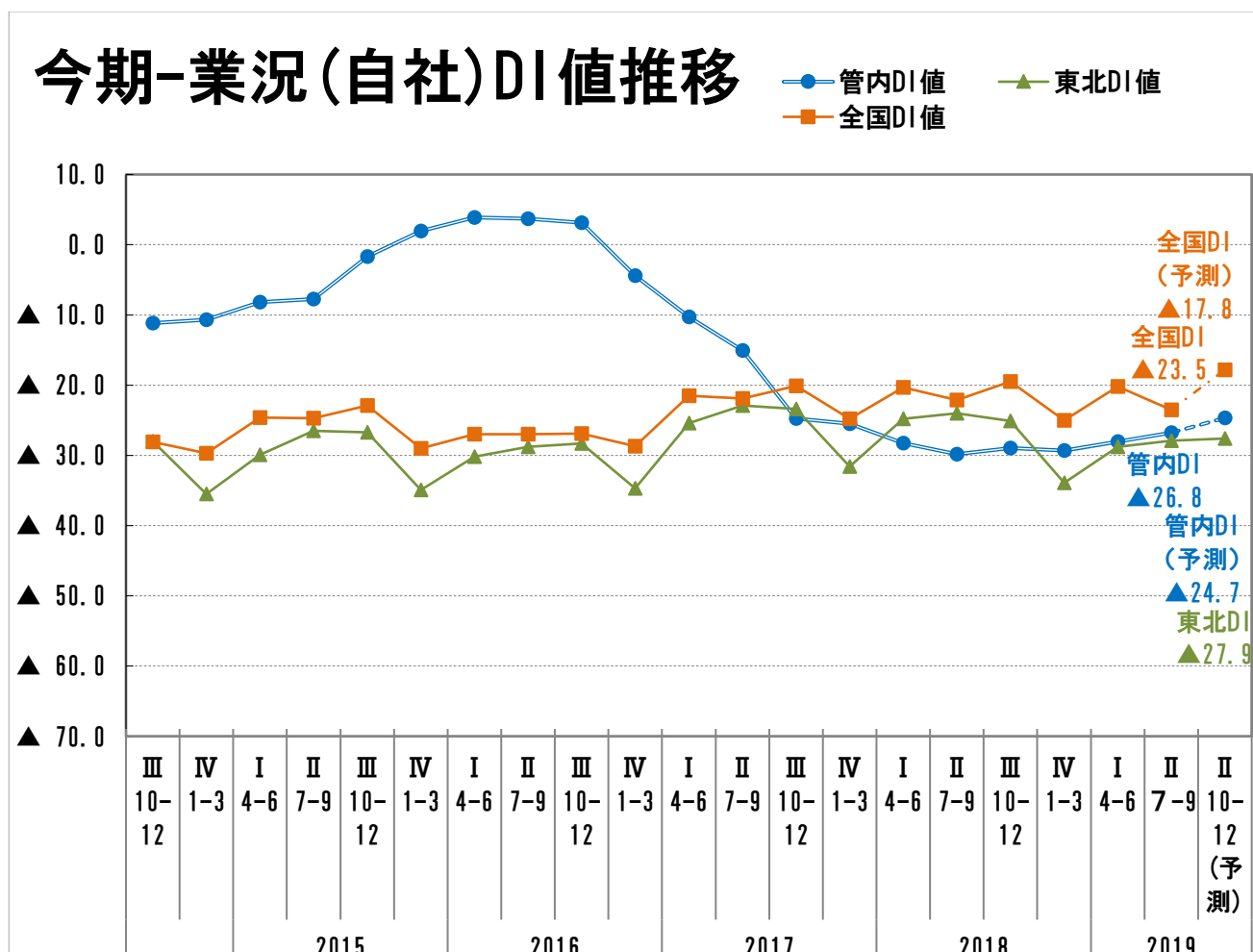


2-3. 今期-業況(自社)DI値の推移

- 全国では、マイナス幅がやや拡大
- 管内では、若干縮小
- 来期予測は、全体的に改善へ

※業況DIは景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値

| 調査期間 | 2017年度 | | 2018年度 | | | | 2019年度 | | |
|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|----------------------|
| | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | Ⅲ 10月-12月 (予測) |
| 全国DI値 | ▲20.1 | ▲24.8 | ▲20.3 | ▲22.1 | ▲19.5 | ▲25.0 | ▲20.2 | ▲23.5 | ▲17.8 |
| 東北DI値 | ▲23.4 | ▲31.6 | ▲24.8 | ▲24.0 | ▲25.1 | ▲33.9 | ▲28.8 | ▲27.9 | — |
| 管内DI値 | ▲24.7 | ▲25.5 | ▲28.2 | ▲29.8 | ▲28.9 | ▲29.3 | ▲28.0 | ▲26.8 | ▲24.7 |



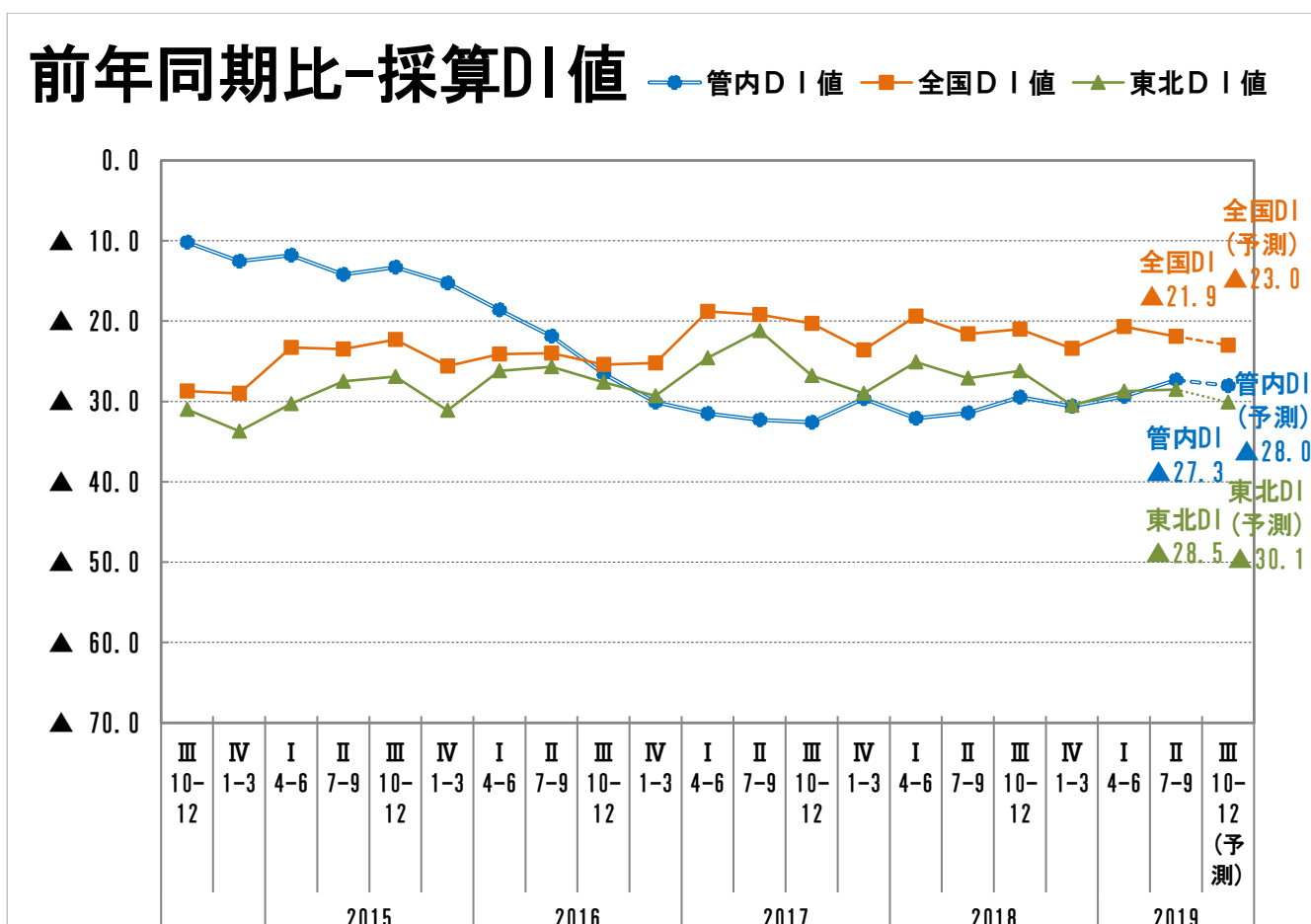
2-4.前年同期比-採算(経常利益)DI値の推移

- 全国では、マイナス幅がやや拡大
- 東北・管内では、マイナス幅がやや縮小
- 来期予測は、全体的にマイナス幅がやや拡大との予測

※採算DIは、「黒字」企業の割合から「赤字」企業の割合を引いた値

| 調査期間 | 2017年度 | | 2018年度 | | | | 2019年度 | | |
|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|---------------------|
| | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | Ⅲ 10-12月 | Ⅳ 1-3月 | Ⅰ 4-6月 | Ⅱ 7-9月 | Ⅲ 10-12月 (予測) |
| 全国DI値 | ▲20.3 | ▲23.6 | ▲19.4 | ▲21.6 | ▲21.0 | ▲23.4 | ▲20.7 | ▲21.9 | ▲23.0 |
| 東北DI値 | ▲26.8 | ▲29.0 | ▲25.1 | ▲27.1 | ▲26.2 | ▲30.5 | ▲28.7 | ▲28.5 | ▲30.1 |
| 管内DI値 | ▲32.6 | ▲29.7 | ▲32.1 | ▲31.4 | ▲29.5 | ▲30.6 | ▲29.4 | ▲27.3 | ▲28.0 |

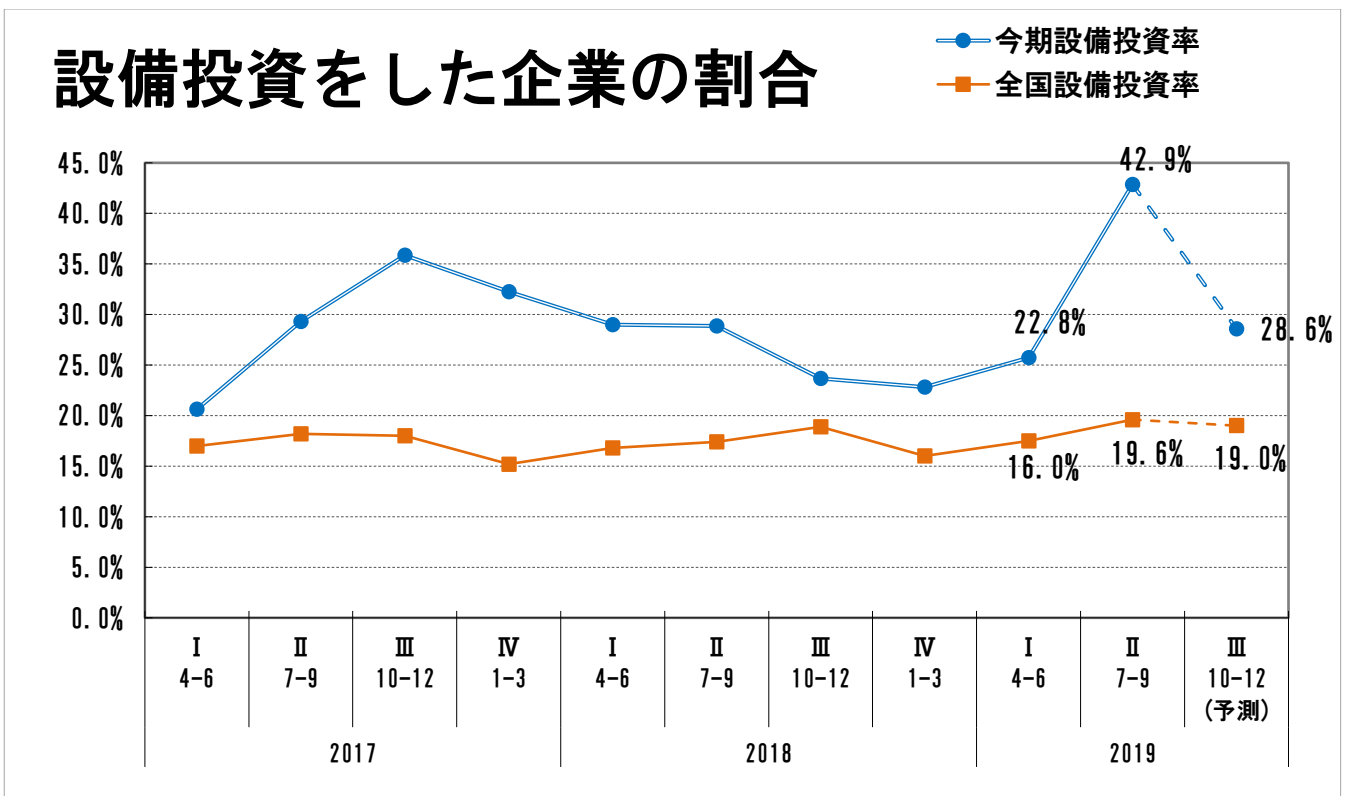
前年同期比-採算DI値



3. その他

3-1. 設備投資

- 管内で設備投資を行った企業は、（実施企業数 26 社 25.7%→）実施企業数 42 社、42.9%で増加
- 来期の設備投資予定は、減少見込み



※設備投資内訳(今期・来期)

■今期設備投資を実施した企業の主な各投資項目を実績ベースで見ると「OA 機器」が 14 件、「各種設備」13 件、「建物・店舗」10 件でその他をあわせた合計は 59 件となった。(前期 38 件)

■来期の設備投資見込みは、「各種設備」、「OA 機器」、「建物・店舗」「付帯設備」への投資予定が多く、合計 47 件が見込まれている。

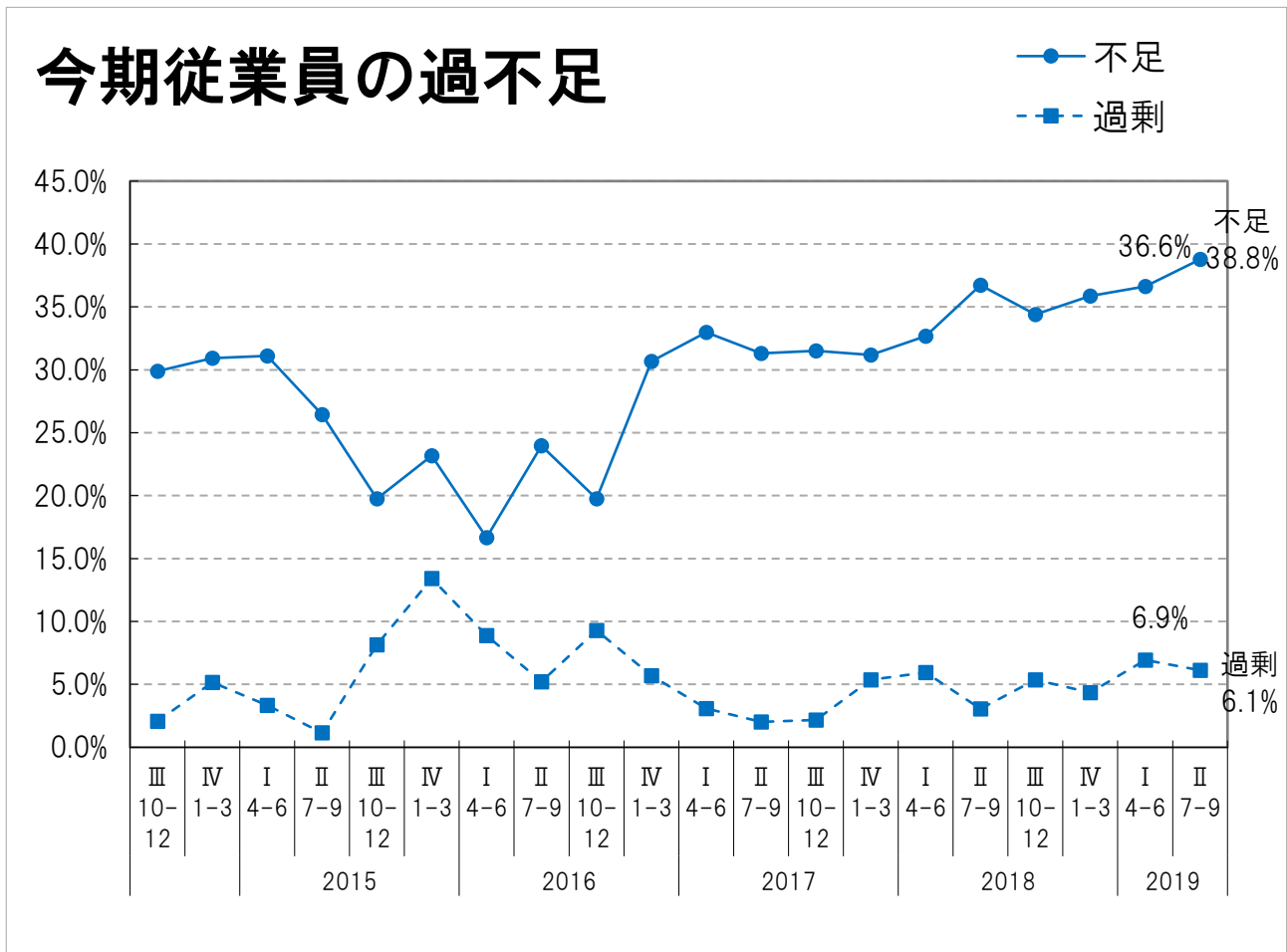
複数回答 単位：件

| 全業種計 | 土地 | 建物・店舗 | 各種設備 | 車両・運搬具 | 付帯施設 | OA 機器 | 福利厚生施設 | その他 | 業種計 |
|------|-------|--------|---------|--------|-------|---------|--------|-------|---------|
| 今期 | 4 (2) | 10 (7) | 13 (6) | 8 (10) | 4 (2) | 14 (7) | 1 (1) | 5 (3) | 59 (38) |
| 来期 | 2 (1) | 7 (8) | 11 (11) | 6 (9) | 7 (2) | 11 (11) | 2 (1) | 1 (4) | 47 (47) |

※カッコ内数字は前回調査(2019 年 4-6 月)分。各種設備は生産設備、販売設備、サービス設備、倉庫設備等

3-2. 今期従業員の過不足

- 不足は前期 36.6%から今期 38.8%にやや増加
- 過剰は前期 6.9%から今期 6.1%にやや減少



※今期従業員の過不足 業種別内訳

| 業種 | 有効回答 事業所数 | 過剰 | | 不足 | |
|-------|--------------|----|-------|----|-------|
| | | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 製造業 | 21 | 4 | 19.0% | 5 | 23.8% |
| 建設業 | 13 | | 0.0% | 9 | 69.2% |
| 卸売業 | 16 | | 0.0% | 8 | 50.0% |
| 小売業 | 24 | 1 | 4.2% | 6 | 25.0% |
| サービス業 | 24 | 1 | 4.2% | 10 | 41.7% |
| 合計 | 98 | 6 | 6.1% | 38 | 38.8% |

3-3. 直面している経営上の問題点(今期・前期)

【上位課題】

需要の停滞

需要の停滞は、全ての業種で顕著な問題となっている。
小売業では「ニーズの変化への対応」も深刻な課題となっている。

経費の増加

全ての業種で経費の増加要因となる課題（原材料価格の上昇、販売単価の低下・上昇難、仕入れ価格の上昇）が上位課題となっており、依然として経営環境の厳しい状況となっている。

また、小売業では、今回「店舗の狭隘・老朽化」が上位課題に入ってきていて深刻さが窺える

従業員の確保難

サービス業においては、従業員の確保難と併せて熟練従業員の確保難が深刻な課題となっている。

※上位3つまでを記載

| 業種 | 第Ⅱ期 (2019年7-9月) | 第Ⅰ期 (2019年4-6月) |
|-------|---|--|
| 製造業 | ↗ 1位 需要の停滞 ↘ 2位 原材料価格の上昇 → 3位 人件費の増加 | 1位 原材料価格の上昇 2位 需要の停滞 3位 人件費の増加 |
| 建設業 | → 1位 官公需要の停滞 → 2位 従業員の確保難 → 3位 民間需要の停滞 | 1位 官公需要の停滞 2位 従業員の確保難 3位 民間需要の停滞 |
| 卸売業 | ↑ 1位 販売単価の低下・上昇難 ↑ 2位 仕入単価の上昇 ↑ 3位 人件費の増加 ↓ 需要停滞 | 1位 需要の停滞 2位 従業員の確保難 3位 販売単価の低下・上昇難 |
| 小売業 | → 1位 消費者ニーズの変化への対応 → 2位 需要の停滞 ↑ 3位 店舗の狭隘・老朽化 | 1位 消費者ニーズの変化への対応 2位 需要の停滞 3位 従業員の確保難 |
| サービス業 | ↗ 1位 需要の停滞 ↗ 2位 従業員の確保難 ↑ 3位 熟練従業員の確保難 | 1位 利用者ニーズの変化への対応 2位 需要の停滞 3位 従業員の確保難 |

凡例・・・前期と比べて ↑: 上昇 ↓: 下降 →: 変動無 ↗: やや上昇 ↘: やや下降

3-4. 業界の動向に関する各社コメント

製造業

- ① 先々、不透明感が強い。
- ② 製紙メーカーの生産調整による印刷用紙の調達難に加え、価格も高騰しており収益圧迫の要因となっている。
- ③ ここ数年は鉄道車両関係（台車枠等）の受注が確保できる見込みであり、これに対応できるよう溶接ロボットを増設する。

卸売業

- ① 夏の季節は、例年売上が低い猛暑による影響もあり、業界全体が低迷している。
- ② 米中貿易問題の影響もあり輸出が良くない。人手不足感がある。
- ③ 販売数量が若干減少してきている。
- ④ 来月から施行される消費税の税率改正に伴う飲食業界（酒類）への減少が懸念される。
- ⑤ 状況良くない中、7月の低温等により生育不良・品質低下・売れ行き不振と今期は最悪の状況となった。

小売業

- ① 増税前の購買力低下、貯蓄への意識が強く消費力が減少している。

サービス業

- ① 消費人口と労働人口の減少により業績が悪化している。